

年末年始の本船荷役実績の傾向等について
(2025.12.31～2026.1.4)

昨年は労使確認が整わず年末年始荷役が実施されなかつたため、2年ぶりの実績調査となつた。

1. 一昨年との比較

	一昨年	
・年末年始荷役実施港	45港	(61港)
・荷役隻数	472隻	(762隻) 290隻減
(外航・内航の合計)		
内訳		
コンテナ船	174隻	(217隻) 43隻減
RORO船	19	(50) 31隻減
自動車専用船	11	(10) 1隻増
在来船	132	(240) 108隻減
その他船	136	(245) 109隻減

2. 傾向と要因

- ・年末年始荷役実施は、前回調査の一昨年と比べ16港減少している。
- ・隻数については、全国では290隻の減となり、調査を始めた2001年度以降最少となった。6大港では85隻の減、その他主要港と地方港では205隻減少している。
- ・船型については、コンテナ船が40隻以上の減少、RORO船は約30隻の減少(約60%減)、在来船とその他船がそれぞれ100隻以上減少した(約45%減)。
- ・日にち(曜日)別に見ると、12月31日は平日であったが、31日が日曜日であった一昨年の実績を下回った。1月4日については日曜日であったため、一昨年より大幅減となった。

3. 外航コンテナ船取扱個数の比較

- ・隻数、取扱個数ともに一昨年より減少したが、1隻当たりの取扱個数については増加した。
- ・コンテナ船174隻中、外航コンテナ船は173隻であり、隻数は一昨年を44隻下回り、取扱個数も約8万3000TEUと約1万3000TEU下回った。
- ・6大港のコンテナ船入港隻数は144隻(一昨年比21隻減)であるが、横浜港と名古屋港が隻数、取扱個数ともに微増した。
 1船当たりの個数については、大阪港が一昨年を上回った。
- ・その他主要港と地方港では、隻数、取扱個数とも減少したが、1隻当たりの取扱個数は一昨年より増加した。
- ・中国航路船が全体の約46%を占めており、割合としては一昨年より微増した。

年末年始の本船荷役実績
 (2025.12.31 ~ 2026.1.4)

(隻)

区分		コンテナ船	その他 (RORO、自動車 在来船、その他)	合 計
主要港	東 京	33 (33)	10 (3)	43 (36)
	横 浜	31 (30)	26 (15)	57 (45)
	川 崎	1 (3)	8 (17)	9 (20)
	名古屋	24 (21)	3 (17)	27 (38)
	大 阪	21 (32)	12 (28)	33 (60)
	神 戸	26 (36)	5 (19)	31 (55)
	関 門	8 (10)	0 (29)	8 (39)
	6大港計	144 (165)	64 (128)	208 (293)
その他主要港	千 葉	1 (0)	8 (20)	9 (20)
	清 水	8 (6)	0 (0)	8 (6)
	四日市	3 (6)	5 (5)	8 (11)
	博 多	5 (15)	0 (4)	5 (19)
	その他主要港計	17 (27)	13 (29)	30 (56)
11港計		161 (192)	77 (157)	238 (349)
その他の港湾 (34港)		13 (25)	221 (388)	234 (413)
合 計 (45港)		174 (217)	298 (545)	472 (762)

注)1. ()内の数値については一昨年実績

2. 数値は、外航船、内航船の合計値